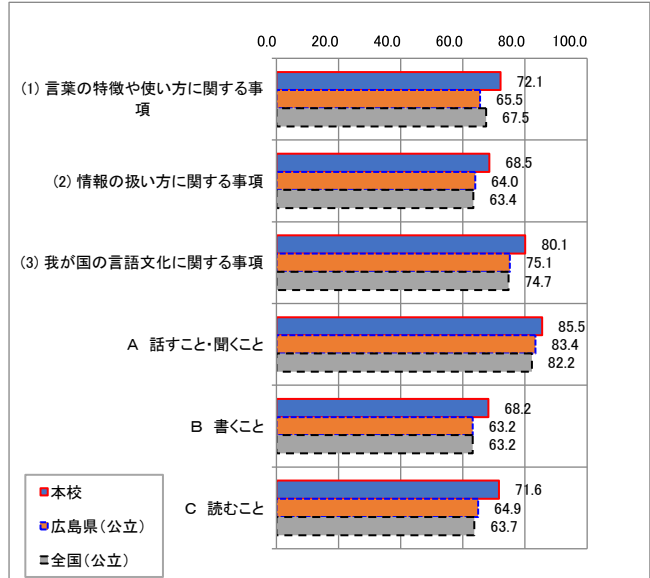
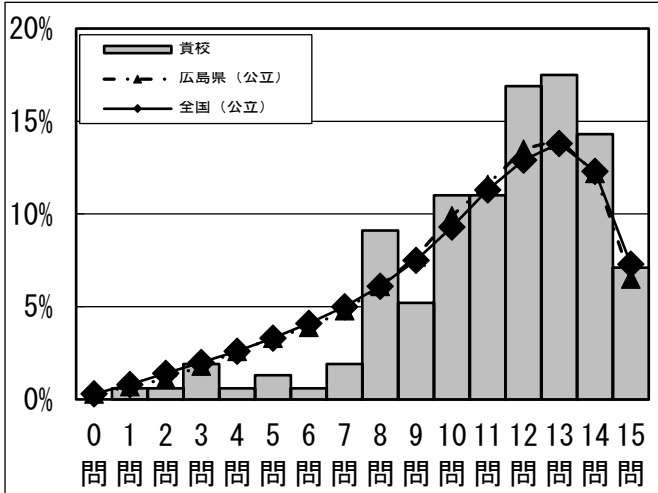


令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

| | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 平均正答率 | 廿日市中 | 広島県平均 | 全国平均 |
| | 75% | 70% | 69.8% |

国語

国語については、平均正答率が75.0%で、全領域と2観点いずれも県平均、全国平均よりも高い。問題形式についても、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて、同様に高い。



【正答率上位2問】

- 「落胆する」の意味として適切なものを選択する。(設問2一) 93.5% (県 90.9%)
- インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する。(設問1一) 89.0% (県 88.3%)

【正答率下位2問】

- 漢字を書く。(おし測って) (設問3二) 50.6% (県 52.4%)
- レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。(設問3一) 56.5% (県 52.4%)

【重点課題】

- インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する設問((設問1二) 正答率 64.9% (県 65.4%、全国 65.1%))で、複数の情報がどういう関係なのかということについて理解することに課題がある。
- 漢字を書く(おし測って)設問((設問3二) 正答率 50.6%)で、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。
- レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する設問((設問3一) 正答率 56.5%)で、叙述の仕方を確かめて文章を整えることに課題がある。

【授業改善】

- 説明的文章の読み取りを通して、意見と根拠、事実と考えなど、情報と情報との関係を意識させる。
- 同音異義語や同訓異字を取り上げ、例文を作成させるなどして、文脈から判断する力を養う。
- 複数の文を取り上げ比較させるなどして、叙述の仕方によって、相手の受け取り方が異なることを確かめさせる。

二 線部のひらがなを漢字に直し、楷書でいねいに書きなさい。

1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。

2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。

3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。

4 「判じ絵」を調べることになった理由を明確にしようとした。

一 山田さんは、「1. はじめに」の線部「もち」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果


■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

(ア) ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。(イ) 言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図1】サル



【図2】スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】

【図3】は、

3 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

■【設問3 二】50.6% (広島県40.1%)

<問題の概要>

漢字を書く。「おし量って考える」

<出題の趣旨>

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

<学習指導要領における内容>

〔第2学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 《漢字》

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

<解答類型>

| 類型 | 正誤 | 解答の内容 | 反応率 |
|----|-----|-----------------|------|
| 1 | ◎正答 | 「推(し)」と解答しているもの | 50.6 |
| 2 | 誤答 | 上記以外の回答 | 43.5 |
| 0 | 無回答 | | 5.8 |

- ◆ 「推(し)」という漢字を正しく書くことができている生徒は約半数である一方、正しく書けていない又は無解答だった生徒も約半数おり、文脈に即して漢字で正しく書くことに課題があります。ちなみに、「推」は、小学校第6学年の配当漢字です。
- ◆ 誤答の多くは、「押」という解答で、このように解答した生徒は、「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられます。
- ◆ 漢字の書きについては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう学習指導を工夫します。
- ◆ 漢字の書きについては、小学校学習指導要領にある学年別漢字配当表に示されている漢字 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要があります。そのため、国語科だけでなく、他教科等の学習や日常の活動(やり取り帳や行事等の感想など)の中でも漢字の書きについて意識させていきます。
- ◆ 1人1台タブレット端末等で文字を入力する際には、適切な漢字を選択することができるよう、漢字に変換する際には意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるよう習慣付けをします。

<内容の系統性>

言葉の特徴や使い方に関する事項《漢字》

| 小学校 第1・2学年 | 小学校 第3・4学年 | 小学校 第5・6学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|---|---|---|---|---|--|
| エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 400 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 | ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 | ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。 |

<教科書との関連>※光村図書出版

| 学年 | 単元 | | 他教科との関連 |
|--------------|------------|-------------------|---------|
| 第1学年 | 1 学びを ひらく | 漢字 1 漢字の組み立てと部首 | |
| | | 漢字に親しもう 1 | |
| | 2 新しい視点で | 漢字に親しもう 2 | |
| | 4 心の動き | 漢字 2 漢字の音訓 | |
| | 5 筋道を 立てて | 漢字に親しもう 3 | |
| | 7 価値を 見いだす | 漢字に親しもう 4 | |
| | 8 自分を 見つめる | 漢字に親しもう 5 | |
| 漢字 3 漢字の成り立ち | | | |
| 漢字に親しもう 6 | | | |
| 第2学年 | 1 広がる 学びへ | 漢字 1 熟語の構成 | |
| | | 漢字に親しもう 1 | |
| | 2 多様な 視点から | 漢字に親しもう 2 | |
| | 4 人間の きずな | 漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 | |
| | | 漢字に親しもう 3 | |
| | 5 論理を 捉えて | 漢字に親しもう 4 | |
| | 7 価値を 語る | 漢字に親しもう 5 | |
| 8 表現を 見つめる | 漢字に親しもう 6 | | |
| | 漢字 3 送り仮名 | | |
| 第3学年 | 1 深まる 学びへ | 漢字 1 熟語の読み方 | |
| | | 漢字に親しもう 1 | |
| | 2 視野を 広げて | 漢字に親しもう 2 | |
| | 4 状況の中で | 漢字 2 漢字の造語力 | |
| | | 漢字に親しもう 3 | |
| | 5 自らの 考えを | 漢字に親しもう 4 | |
| | 7 価値を 生み出す | 漢字 3 漢字のまとめ | |
| 漢字に親しもう 5 | | | |
| 8 未来へ 向かって | 漢字に親しもう 6 | | |

■【設問3 一】56.5% (広島県52.4%)

<問題の概要>

レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。

<出題の趣旨>

読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

<学習指導要領における内容>

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等

B 書くこと《推敲》

エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

<解答類型>

| 類型 | 正誤 | 解答の内容 | 反応率 |
|----|-----|-------------|------|
| 1 | 誤答 | 1 と解答しているもの | 3.2 |
| 2 | 誤答 | 2 と解答しているもの | 13.6 |
| 3 | 誤答 | 3 と解答しているもの | 25.3 |
| 4 | ◎正答 | 4 と解答しているもの | 56.5 |
| 5 | 誤答 | 上記以外の回答 | 0.0 |
| 0 | 無回答 | | 1.3 |

- ◆ 正答した生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることができます。「もち」を「もったため」に直すことにより、「ため」の前後で述べている事柄の関係が、原因・理由とその結果であることが明確になることを捉えています。
- ◆ 最も誤答が多かった【解答類型3】を含め【解答類型1～3】を選んだ生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題があります。「もち」を「もったため」に直すことにより、「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を捉えることができなかつたものと考えられます。
- ◆ 書いた文章を推敲する際には、伝えようとするのが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように学習指導を工夫します。
- ◆ 推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動を取り入れ、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするのが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめたりします。

<内容の系統性>

B 書くこと 《推敲》

| 小学校 第1・2学年 | 小学校 第3・4学年 | 小学校 第5・6学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|--|--|------------------------------------|---|-------------------------------------|---|
| エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 | エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 | オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 | エ <u>読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。</u> | エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。 | エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 |

<教科書との関連>※光村図書出版

| 学年 | 単元 | | 他教科との関連 |
|------|-----------|-----------------------------------|--------------|
| 第1学年 | 4 心の動き | [推敲]読み手の立場に立つ | |
| 第2学年 | 4 人間のきずな | [推敲]表現の効果を考える | |
| | 8 表現を見つめる | 国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る | |
| 第3学年 | 4 状況の中で | [推敲]論理の展開を整える | 社会 ・戦争の終結 |